2026 年 9 月
聖学院大学　内部質保証推進 IR 委員会

聖学院大学　第 7 回大学評価会議　報告書(総括)

Ⅰ　聖学院大学　第 7 回大学評価会議　実施概要

1. 趣旨

聖学院大学の教育方針・内容及び学外との連携などを対象とした自己点検・評価による改善に関して、地元自治体及び地域の経済団体等から意見・評価をいただき、一層の大学教育の拡充及び地域との連携の推進を図る。

2. 開催日時・会場

日時：2026 年 9 月 2 日（水）午前 10 時 00 分～12 時 30 分
会場：聖学院大学　エルピス館エルピスホール他

3. 第7回テーマ

「AI時代に求められる人材育成と地域とともに歩む大学の役割
－聖学院大学の教育改革の現在地と今後の展望－」
本学の教育改革と教育活動の事例紹介、各学科の教育活動を通じた地域社会への中核人材・専門人輩出の取組について説明した後、グループ協議により本学の活動に関するご意見・評価・ご提言をいただいた。

4. 外部有識者に意見・評価・提言を求める事項

議題１．本学教育改革ビジョンと教育活動、地域社会に向けた専門人の育成
議題２．地域とともにある聖学院大学の教育の可能性と課題
議題３．聖学院大学の教育方針・内容に関する事項(書面によるご意見・評価・ご提言)
　１）教育方針・内容に関するご意見・評価・ご提言
　２）大学評価会議全体を通じたご意見・評価・ご提言

5. 外部委員

さいたま北商工協同組合 副理事長　新井 一年 氏
さいたま市教育委員会 学校教育部高校教育課 主席管理主事　五十嵐 淳 氏
人間総合科学大学 監事・顧問、学校法人聖学院評議員　井上 雅之 氏
埼玉経済同友会 専務理事　大石 克紀 氏
放送大学埼玉学習センター 所長　川又 伸彦 氏
東京女子大学 教授・キリスト教センター長 学校法人聖学院監事（教学担当）　佐野 正子 氏
上尾市 市民生活部 市民協働推進課 副主幹　周 暁蘭 氏
埼玉県社会福祉協議会 福祉事業局長　鈴木 隆夫 氏

埼玉県教育局 県立学校部高校教育指導課 教育指導幹　髙橋 正行 氏
埼玉りそな銀行 宮原支店 支店長　西村 浩太 氏
西武文理大学 学長　ハンサリ ギオーム 氏
上尾商工会議所 専務理事　三井田 晴宏 氏
さいたま商工会議所 理事・総務本部長　八島 健 氏
埼玉中小企業家同友会 代表理事　吉田 雄亮 氏
（五十音順）

Ⅱ　外部委員の意見・評価・提言

今回の大学評価会議では、「AI 時代における人材育成と地域とともに歩む大学の役割」をテーマとして、本学の AI・データサイエンス教育、地域連携教育及び今後の大学改革について議論が行われた。外部委員からは、AI 時代を見据えた教育改革への積極的な取組や、地域と連携した実践的な学びに対して高い評価が寄せられた。一方で、AI を活用する能力のみならず、人間ならではの思考力や判断力、対話力を育成していく必要性について多くの意見が示された。また、地域社会との連携のさらなる深化や、本学の特色の一層の発信に対する期待も寄せられた。

議題１：AI 時代における人材育成と大学教育のあり方

本学が推進する AI・データサイエンス教育や副専攻制度について、時代の要請に応える先進的な取組として評価がなされた。一方で、AI を単に活用するだけでなく、生成された情報を批判的に検証し、自ら考え判断する力を育成することの重要性が指摘された。また、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力、協働する力など、AI では代替しにくい人間的能力を育成することが大学教育の重要な役割であるとの意見が示された。

議題２：地域貢献型大学への転換に向けた教育改革と連携の可能性

地域社会に必要とされる大学となるためには、地域企業、行政機関、自治会、学校などとの連携をさらに推進し、地域課題と学生の学びを結び付けることが重要であるとの意見が寄せられた。また、生涯学習やリスキリングへの対応など、大学が地域住民や社会人の学びを支える役割への期待も示された。地域との距離の近さや実践的な教育活動は本学の強みであり、特色としてさらに発展させることが期待された。

議題３：大学・地域・行政・企業の連携による実践教育の高度化

PBL やフィールドワーク、インターンシップ等の実践的な学習機会は、学生の成長に有効な取組として評価された。また、企業や行政との連携を通じて、学生が地域課題や社会課題に主体的に向き合う機会を充実させることへの期待が示された。加えて、企業においても AI 活用が進展していることから、地域連携と AI 教育を組み合わせた新たな教育展開の可能性についても提言がなされた。

議題４：地域とともにある聖学院大学の教育の可能性と課題

学生によるフィールドワークや地域活動の成果について高い評価が寄せられ、地域住民や企業との交流を通じて学生が成長していることが確認された。また、本学が推進するリベラルアーツ教育、人文学教育、AI・データサイエンス教育及び地域連携活動を有機的に結び付け、聖学院大学ならではの特色として発信していくことへの期待が示された。さらに、地域課題の解決や生涯学習の推進に向けて、地域社

会とともに歩む大学としての役割を一層充実させることが求められた。

全体的な意見

AI 技術の進展に対応した教育改革を進めるとともに、人間としての思考力や倫理観、対話力を育成することの重要性が改めて確認された。また、地域社会との連携を通じた実践教育や、生涯学習・地域連携機能の強化に対する期待が数多く寄せられた。本学がこれまで培ってきた少人数教育、人間教育及び地域とのつながりを基盤としながら、AI 時代にふさわしい大学として発展していくことへの期待が示された。

Ⅲ　外部委員の意見・評価・提言を受けた聖学院大学学長の所見・総括

本会議において頂戴した貴重なご評価やご提言を、今後の聖学院大学の教育改革及び地域連携の推進に生かしていく所存である。

今年度は、「AI 時代における人材育成と地域とともに歩む大学の役割」をテーマとして、本学の AI・データサイエンス教育や地域連携教育の取組について説明するとともに、学生によるフィールドワークの成果発表を行った。

グループ討議では、AI を活用する能力の重要性とともに、AI によって生成された情報を適切に判断し、活用する力の必要性について多くのご意見をいただいた。AI は私たちの仕事や学びを支える有力なツールとなる一方で、最終的に判断し責任を負うのは人間である。だからこそ、AI を適切に活用しつつ、自ら考え続ける批判的思考力を育てることが大学教育の重要な使命であると改めて認識した。

また、コミュニケーション能力や協働する力、課題を発見し解決する力など、人間にしか発揮できない能力の重要性についても多くのご指摘をいただいた。本学が建学以来大切にしてきた少人数教育や対話を重視した教育は、こうした力を育成する上で重要な役割を果たすものであり、今後も本学の教育の根幹として大切にしていきたい。

地域連携については、企業、行政、地域団体等との連携をさらに深め、PBL やフィールドワークなどの実践的な学びを充実させることへの期待が寄せられた。今回の学生発表に対しても高い評価をいただいたが、地域の課題に向き合い、多様な人々と協働しながら学ぶ経験は、今後ますます重要になるものと考えている。本学が地域社会とともに歩む大学として、その役割を果たしていきたい。

これからも本学の教育・研究活動、地域連携及び内部質保証に関する取組について、今回頂戴したご意見やご提言を踏まえながら改善を重ねていきたいと考えている。少子化や AI の進展など大学を取り巻く環境は大きく変化しているが、「神を仰ぎ 人に仕う」のスクール・モットーのもと、一人ひとりの成長を支える教育を大切にしながら、地域になくてはならない大学となれるよう、引き続き教職員が心を一つにして、改革を進めていきたい。

学長　小池 茂子